

平成 23 年 5 月 11 日

静岡県知事  
川勝平太様

ふじのくに浜岡原発を考える会  
発起人代表 漆畑信昭

## 要望書

新緑の候 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて東日本大地震による福島第一原子力発電所事故はレベル7に相当するチェルノブイリ原子力発電所事故と並ぶ大規模なものとなりました。

今まで原子力発電推進派が安全、クリーンなエネルギーとして主張してきた錦の御旗は急速にしぼみ世界的に完全な逆風となりつつあります。すでにドイツの地方選挙では、反原発を掲げる緑の党が大躍進しました。

大地震が生じると近い将来、近隣で別の大地震が起こる恐れがあると専門家は指摘しています。日本列島周辺を眺めると地震空白地は静岡県沖以外見当たりません。東海地震はいつ起こっても不思議ではないのです。

ここで気になるのが予想震源地に近接する浜岡原子力発電所の存在です。過去度々小事故を起こしている古い施設です。特に問題とされるのが平成 13 年 11 月に 1 号機で起こった緊急冷却系配管破断事故です。これはまさに今回福島第一原子力発電所で起こったと同じ水素爆発によるものです。

このような前科があるにもかかわらず中部電力株式会社の地震対策には厳しさがありません。東日本大震災でマグニチュード 9.0 津波の高さ 38 メートルを記録しているのに、予測ではマグニチュード 8.7 津波の高さは 8 メートルです。防波壁の高さはたびたび変更しても 12 メートル以上です。

幸い最近静岡県知事が浜岡原子力発電所 3 号発電機の再運転を認めぬと言明されました。賢明なことです。また、菅 直人総理が中部電力株式会社に防潮堤を新設するまで同発電所全面運転停止を要請し、中部電力株式会社がそれを受諾したことは評価します。しかし東海大地震の震源域の中心に同発電所が存在する現実では中部電力株式会社の地震津波対策は大いに心配です。

私達も世論を高めバックアップいたしますので、静岡県は中部電力株式会社に対し想定されるあらゆる事故を起こさぬよう、想定外という言葉を使わせぬよう、強くチェック指導して頂きたいと切望します。

それが不可能なら、県民の生命とあらゆる生物の生命を守るため、浜岡原子力発電所に最後の大英断を下してもらいたいと思います。

以上